

広報 なかつえ

昭和63年1月号／大分県日田郡中津江村／No.273



あけましておめでとうございます

——鯛生小学校にて——

88

1

No.273



村花「しゃくなげ」

《村民憲章》

わたしたちは、中津江村民であることに誇りを持ち、みんなで力を合わせて、明るく豊かな村をつくるためこの憲章を定めます。

1. 礼儀正しく、思いやりのある村民になります。
2. 自然を愛し、美しい環境をつくります。
3. 健康で、楽しい家庭をつくります。
4. 資源を生かし、生産にはげみます。
5. 伝統と文化を愛し、教養をたかめます。

謹賀新年

昭和六十三年 元旦

今年 は辰年



辰は十二支の中で唯一の空想の動物です。でも、念のため、ある動物図鑑を見たら、辰は竜として載っていました。「大蛇に角や猛獣、猛鳥の頭を組み合わせた伝説の動物」とあります。辰は一二支の仲間として広く知られた存在なので、架空の動物の中でも別格なのでしょう。もちろん、最近登場した怪獣の類は図鑑に載っていませんでした。

伝説の竜は中国や日本だけでなく、同じようなものがヨーロッパやインドなどにも見られます。どれも実在の動物を組み合わせたようなものですが、中国や日本の竜は蛇の胴に足をはやし、鬼の顔に鹿の角をつけ

たような動物です。竜は日本では、水をつかさどる力を持っているとされ、竜神や竜王に雨ごいをする風習が各地にあります。「竜住む池は水枯れず」とか「竜の子は小さしといえども、よく雨を降らす」などといわれるのはこのためです。

また竜はことわざにもしばしば登場します。「竜吟ずれば雲起こる」とは、英雄の決起に多くの同志がこれに従うことの意味で、英雄を竜にたとえているのです。

「竜の翼を得たるごとし」は強いものがさらに強くなることで、翼の代わりに水雲などということもありま

す。「竜の顎の玉を取る」は、難しいこと、危険なことのととえ。また、「竜の鬚を蟻がねらう」は身のほど知らずのたとえです。

このように竜は強いものとされていきますが、「竜虎あい撃つ」ともいわれますから、竜は虎とは互角のようです。

◇ さて、みなさんはこの新年をどんな決意でお迎えになりましたか。いずれにしても「竜頭蛇尾」に終わらないようにしたいものですね。

地方の時代は 地方経営の時代

～明日の中津江をみつめて～



村長 斉藤隆一

昭和六三年の新春を迎え
謹んで新年のお慶びを申し
あげます。
昭和六二年もまたたく間
に過ぎて新しい年を迎えま
した。
昨年は統一地方選挙の年
でみな様方にご迷惑をおか
けしましたが、幸い村民多

数の方のご信任をいただき、
村政を担当させて頂いただ
いであります。先に広報で村
政に対する抱負を述べまし
たが、新年を迎えるにあた
り、既定の方針に基づき、
新しい気持ちで取り組むつ
もりです。
昭和五五年に基本構想・

計画を樹立して以来、村づくりに全力を傾注してきましたが、一応村政も節目に達していると思えますので、今後、昭和七〇年を目標にして、さらに一層きめ細かく、創造的で活力ある村づくりに邁進したいと思えます。したがって、現在七〇年を目標にした基本構想・計画を検討中です。

昨年来、米ソ間でINFの撤廃が約束されましたが、国際情勢はきわめて微妙で日本の内政・外交・防衛・経済等諸般にわたって多事多難の年を迎えつつあります。最近円高はますます進展し、日本経済に与える影響は深刻なものがあり、経済構造の変革、体質改善は避けて通れないものと思われれます。特に第一次産業農

林業)に与える影響は深刻で、これから農山村が生きていくためには、正に発想の転換を行い、農林業振興のための創意工夫と真剣な努力が必要と思えます。

一方、国土庁の四全総(第四次全国総合開発計画)では多極分散型国土開発の方針が示されましたが、一極

集中、中央集権の開発は避けがたく、地方自治体も行政の運用がますます厳しくなるものと思えます。

村づくりは 人づくり

本村においても、審議中の基本構想・計画案に基づき村政を進めたいと思えますが、基本的に構想は従来と大きく変わるところはありません。あくまでも基本産業である農林業の振興を中心施策として進め、これに併行して道路網の整備、社会教育の振興、観光事業の開発、環境の整備を図り、所得を増大させて、村づくりを完成したいと思えます。

特に農林特産物の振興については、小量多品目の第一次製品の生産増大とともに一・五次加工を盛んにして付加価値を高め、また、高度栽培技術やバイオテクノロジー等を導入して技術革新化、情報化の波に遅れないような生産、加工、流通、販売態勢を確立する必要があると思えます。そのためには

これに必要な人材育成、特に技術者及び後継者の育成が緊急の課題と思えます。交通網の整備については県境付近の国道道の改良促進が急務です。

国道四四二号線の県境付近(特に福岡県側、隧道を想定)、日田鹿本線及び鯛生菊池線(ともに熊本県側)の改良が、今後村の将来を決する最大課題と思えます。社会教育では、村づくりに必要な人づくりに力を注ぐとともに各自治会ごとの自治会活動、公民館活動を盛んにして、自治意識を高め、集落づくりを充実する必要があると思えます。

観光は 有望な産業

観光開発では六二年度で家族旅行村の補助対象事業は終了しますが、さらに計画に基づき、必要な単独事業を進めながら鯛生金山観光と併せて、その進展を図る必要があります。日帰り観光から滞在観光をめざしたいと思います。

鯛生金山観光事業についてはオープン以来約五年を経過し、入坑者は二〇〇万人を突破しました。初年度より三か年は爆発的な人気を呼びましたが、最近漸減の傾向にあります。よい意味に解釈すれば観光客が定着したといえますが、今後いかに観光客を増加させるかが重要な課題です。

県境付近の国道の改良を一日も早く促進し、全国的にPRを行い、広域的観光ルートの開発を図るべきだと思います。中国四国等の観光客も増えつつあります。が近くに類似の観光地も開発されつつあります。したがって競争原理に立った営業活動が必要だと思います。

政府は円高、貿易摩擦解消のため内需拡大、輸入の増大等を策しています。余暇の増加に伴い、内需拡大策として九州各地に民間投資による巨大なリゾート基地建設の計画がなされています。大分県も観光を重要な産業としてとらえ、地域開発の目玉として活用し、県民の重要な所得源となしつつあります。六四年度に

日田まで高速道路が開通されることになっており、これを利用し、各地との広域的に連携を図りながら、観光を有望な産業として着目する必要があると思います。

しかしながら、観光事業はあくまでも村づくりの手段であつて目的ではありません。農林業及び一・五次加工産業を観光事業に連動させて、住民の所得に結びつけながら村づくりにつながるべきことを銘記すべきです。

交流で 都市の活力を山村に！



また、一方では今後山村が生きるためには山村と都市との交流を図る必要があると思います。つまり都市

の活力を山村に、山村のゆとりを都市の人に与えることにより、山村と都市が共生する交流の時代を迎えつつあります。

鯛生金山事業も不特定多数の人との交流事業ですが、一村一品の特産品を媒体とした都市の消費者及び市場との交流、あるいはスポーツによる交流、宿泊、山村留学等交流の手段はいろいろあります。これらを積極的に交流を進め、しかも所得に結びつけることが緊要だと思えます。

六二年度から実施中の交流を目的とした山村地域資源高度活用促進モデル事業はその意味において意義ある事業となります。また、猪野々堆積場を利用したラグビーやサッカーなどの球技地の造成もスポーツによる交流の観点から重要な意義があり、六三年度に自衛隊の協力を得て造成する予定です。もちろんモデル事業は生産施設を重点にして特産品（ワサビ等）の加工施設、バイオテク施設等高度技術を駆使して生産向上を図る施設を整備するとともに

に活性化交流の拠点としてクラブ跡に交流センターを建設し、村の活性化を図りたいと思います。

野田、栃原、ダム周辺の環境整備については、既に旧野田小学校跡地、ダムサイド付近においてグラウンドの整備、公園施設を実施中ですが、今後、津江分水工事の進展に伴い、栃原の取ダム工事及び導水路工事に関連して、栃原グラウンド付近の河川敷地の環境整備を建設省と連携をとりながら完成したいと思えます。

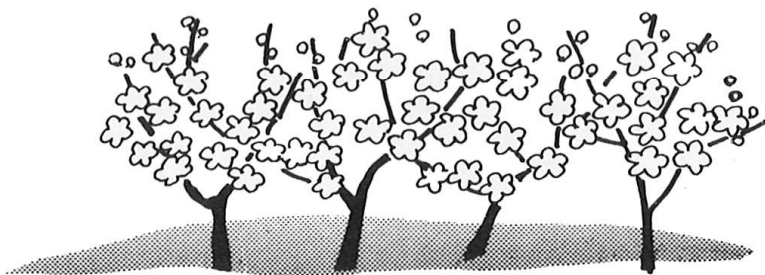
地方経営の時代

地方の時代といわれて久しくなりますが、今や地方の時代は地方試練の時代と意味が変ってきました。

地方試練の時代、地方受難の時代、また、地方連合の時代ともいわれる昨今ですが、村としては地方の時代は地方経営の時代としてとらえ、将来を見通して先見性をもって施策を進めた

と思います。来たるべき国際化、高度情報化、技術革新化、高齢化の時代の波に適応しつつ、これを先取りして行財政を確立し、健全財政を維持しながら地方自治の目標に向かって邁進し、村づくりを完成しなければならぬと思えます。

村長以下一丸となって地域開発、住民福祉の向上に全力投球したいと存じますのでみな様方の絶大なご協力を心からお願いして、新年のあいさつとします。



豊かな住みよい 村づくりは みんなの手で!



議長 北村益郁

輝かしい新年を迎えられ
村民のみな様方とともに良
い年でありませうと祈念す
るものでございます。
顧みますと昨年は春には
県知事をはじめ村長、村議
会議員の改選に伴う統一地
方選挙が行われ、みな様方
には大変ご迷惑をおかけし

ましたことを申し訳なく思
っております。
夏には久しぶりに木材価
格の高騰の兆しが見えはじ
め、特にヒノキの価格は戦
後最高という、未だかつて
ない高騰であったのも束の
間、また元の価格に逆もど
り、不況の嵐はいつ果てる

こともなく、例年にない厳
しい年でした。
秋には中曽根総理の退陣、
新しく竹下総理の誕生とな
りました。昨年一月一八
日東京武道館で全国議長大
会において、あいさつの中
で「ふるさと創生論」を話
され、日本経済に多少の変
化を期待しているものでご
ざいます。
さて、昭和六三年辰年は
どのような年になりましたよ
うか。みな様ご承知のと
り五五年に中津江村基本構
想・計画が打ち出され、今
年はその見直しの年にあた
り、七〇年を目標にその審
議がなされています。みな
様方の貴重なご意見をよろ
しく願います。
道路の整備を促進しなけ
ればなりません、国道四
四二号線、日田鹿本線、鯛
生菊池線の早期改良につ
いて関係市町村長、議長と
もに大分県に陳情を行った
ところでございます。

鯛生金山観光事業も五か
年を経過し、入坑者数が年
年減少している状況のよう
で、今年はその節目という
ことで対策を講ずべきでは
ないでしょうか。幸いにし
て家族旅行村が春にはオー
プンの予定ですが。
川辺に保育所を改築中で
四月より一村一か所の幼児
保育の場がオープンされる
ことは誠に喜ばしいかぎり
です。
教育では、小中学校の施
設の充実により、立派な教
育が行われていますが、児
童生徒数の減少により、特
に小学校の複雑な問題につ
いてはみな様方のご意見を
拝聴しつつ、取り組むべき
ではないかと思っております。
豊かな住みよい水と緑の
村を育てるには人づくりが
肝要であることは申すまで
もございませんが、行政的
指導でどのように、どのよ
うな形で行われるか大変困
難な問題だと思えます。
やはり今後の村づくり、
人づくりの問題はお互いが
参加する心、自分自身が主
役になる心、一人一人が自
信を持って参加実行するこ
とではないでしょうか。

本村で工場誘置や雇用の
場がないとするならば、農
林業を主体とした恵まれた環
境を最大限に活用して、狭
い耕地で優秀な作物を選定
し、適地適作目を見出すこ
とが先決ではないでしょうか。
みな様の個人個人が豊
かな住みよい村づくりに真
剣に参加することによって
道が開けてくるのではない
かと思えます。
見渡す限りの杉の人工林。
本村も円高等の影響で、価
格の低迷で荒山になろうと
しています。この杉の人工
林も手入れをすることによ
って宝の山となるものでは
なく、年々減少していく作業
班員のあり方にも今後林業
のあり方にも今後林業を活
かす複雑な要素が含まれて
います。安い価格の木材を
いかに有利に販売し、生産
基盤の確立をめざし、林業
地としての活路を見出すこ
とによって後継者も参加す
るようになるのではないで
しょうか。
今後ともみな様方の代表
として信頼される議会活動
に研鑽努力してがんばる所
存です。みな様方のなおい
層のご指導ご鞭撻をお願い
申しあげまして新年のあい
さつといたします。

志は高く そして 実践は脚下から



教育長 佐藤誠一郎

○大黒さまの袋
「大黒さまの袋には何が入っているでしょうか」とたずねたことがあります。「きつと、たくさんお金が入っていると思います。だからあんなうれしそうな顔をしているのです」
「ほかの考えの人はいませ

んか」と聞きましたが、誰もそうだと思っていないようです。
「そうかもしれないね、だからあんなうれしそうな顔しているのかもしれないね。だけど、ずいぶん重いだろうな。かついだ時は嬉しかったろうが、その重みが肩

にくいこんできたなら、しかもつらになつてくるのではないだろうか。それでも大黒さまはにこにこしている。ひよつとするとお金ではないかもしれないね。」
「そこで申しました。」
「さて、私にもわからないが、ひよつとすると、あの中には『よろこび』がいっぱい入っているのではないだろうか。だから、あんな嬉しそうな顔をしているのではないだろうか。」
そして、
「私たちは、みんな背中に一つずつ袋をいただいているのではないだろうか。しあわせな人というのは、背中にたくさん『よろこび』を貯えている人のこと、不幸な人というのは、背中の袋に、不平、不満、愚痴を入れて背負っている人といえる。新しい年を迎えて、今年を光いっばいの年にするために『よろこび』をいっぱい貯える年にしよう。ところが、私は町の大売出しの福引券をひいても、マッチの小箱しか当たったことはない。私はそういう宿命

を背負っているらしい。だから『大きいよろこび』とは縁がないらしい。そこで考えた。みんなが拾い忘れていた『小さなよろこび』をたくさん貯えることにした。」
と、申しました。
日本では、元東大総長の茅誠司先生が「小さな親切運動」を提示して、私たちのまわりを「よろこび」でいっぱいにして明るい住みよい社会にしようという一大運動を起こされております。
志は高く、そして実践は脚下からというのが大事なことでないでしょうか。

①あいきつ運動

あいきつとは、心をひらき相手にせまるという意味であり、人間生活の土台であり、礼を正すことであります。また、人間の思いやりの情を培う出発点でもあります。
●おはよう（さあ、太陽が昇った、励み合いましよう）
●おやすみ（太陽が沈んだ、お疲れさまのいたわりの心）
●いつてまいます↓いつ

ていらつしやい（いつたら必ず家に帰っていらつしやいという意味がある。）
●オアシス運動
オ……オハヨウ
ア……アリガトウ
シ……シツレイシマシタ
ス……スママセン
●イギリスの家庭で必ずしつけること
(1) プリーズ（お先へどうぞ）
(2) サンキュー（ありがとう）
(3) エキスキューズミー（すみません）
(4) スマイル（ほほえみ）
このようなあいきつのかわしあいの中から、相手へのいたわりの情が醸されてきて、お互いがいたわりあいい、あたたかく明るい住みよい地域が実現してくることを信じます。
あいきつができるようにするには、まず家庭からが第一です。しかも、しつけとしては親や大人や先生が先に声をかけることが肝要です。中国の聖人孔子も、「人に会つたら、自ら先にあいきつしよう。」と言っています。
家庭でも学校でも地域でも、みんながこのことに深

暮らしのアドバイザーに

清水新八さん(引野)
森脇茂さん(池田)

悪徳商法による被害を防ぐため、「暮らしのアドバイザー」第1号として、清水新八さん(引野)と森脇茂さん(池田)が県から委嘱されました。現在、本格的なアドバイザー活動に備え、法律や手口の研究など勉強に励んでいます。

悪徳商法による被害は県内でも増加しており、商品も電話、着物、布団、健康食品、資格講座など広範囲になっています。

アドバイザーは消費者からの苦情相談にあたり、問題が生じた場合には、県消費生活センターなどの関係機関と連絡をとりながら、解決に協力することになります。

悪徳商法の被害にあわないように注意することはもちろんですが、もし、被害にあった場合には、アドバイザーにご相談ください。



②五三〇運動(ゴミゼロ)
住みよい村づくりの土台のもう一つは、まわりをきれいにすることです。これは「場を清める」という深い意味があります。場を清めることは心を清めることになり、周梨繁特が、お釈迦様から教えられ、「塵を払おう心の垢を除こう」として日常の清掃に励み、悟りの境地に達したことは有名な話であります。

村内にアキ缶やごみを黙々と拾い続けてくださっている方がおられますが、正に菩薩行であり、心から敬意を表します。古来、下座行といわれるものは、人のために、体をはって尽くすことをいうのです。こんな方々がふえていけば、村は正に理想郷となることでしょう。ありがたいことです。

今年も、地区公民館での村づくりの草の根運動が少しずつでも芽生えてくることを感じております。



お年玉



まず、お聞きします。あなたはこの正月、お年玉を何人に、いくらあげましたか? またお宅の子供さんは、何人からいくらもらいましたか?
この額について、ある保険会社が昭和六十一年末に調査したものがあります。年末の調査なので、いくらあげるつもり「いくらもらえそう」という予測なのですが、母親は平均七・二人に合計二万八千二百三十一円、子供は七人から二万三千九百四十三円

となつています。

金額の多いことにも驚きますが、意外なのは、もらう側より、出す側の予測が上回っていることです。出す側にま

でしようか。いまはお年玉というと、子供にお金であげることが主になつていますが、室町時代あたりから武家や公家の間では、物を贈答する風習があつたようです。

年玉の語源は「年賜」だといふ説もあり、丸いもちのこととする見方もあります。

最近では、年始のあいさつの時に「年賀」と書いたタオルやせつけんなどを持参することもありますが、これもお年玉の一種です。

今年はこの「お年賀」用に賀詞と名前の入ったテレホンカードも出回っています。さて、お年玉といえば楽しみなのが、お年玉付き年賀葉書の抽せん会。今年は一月十五日に愛媛県松山市で行われます。

募集!

63年度奨学生

昭和62年度の中津江村奨学生を次の要綱のとおり募集します。

ご希望の方は1月31日までに書類をそろえ、教育委員会まで提出してください。

▶応募資格

- ①村内に1年以上居住している者の子弟。
- ②学業、人物ともにすぐれかつ健康な者。
- ③経済的理由により、学資の支払いが困難な者。
- ④高校、高専に進学、または在学する者。ただし日田市内の県立高校に進学、在学する者は、高校寄宿舎に入寮する(している)者。

▶奨学金の額

貸付金額…月10,000円
(年間110,000円、8月を除く)

▶貸付期間

昭和62年4月から進学、在学する学校の修学期間の終了まで無利子で貸付。

ただし、学業成績等が著しく低下した場合、または所得が著しく増加した場合は打ち切ることがある。

▶返済期間

卒業または退学した年から7年以内。

応募手続き等について詳しく知りたい方は教育委員会までお問い合わせください。

通信教育を

受けてみませんか!

県内で唯一の通信制高校である碩信高校では、高校卒の資格を得ようとする人々、生涯教育を目ざす人々を対象に生徒を募集しています。

▶設置学科 普通科、衛生看護科、被服科、科目受講生(特定の科目で高校程度の学力をつけたい人、あるいは、さらに精深に学習したい人の二通りのコースがあります。)

▶入学資格 中学校卒業、または同程度の学力があると認められた者。年齢・職業等に制限はありません。ただし、衛生看護科・被服科は本校と提携している学校の生徒に限ります。

▶学習方法 通信指導と月2回(日曜日)の面接授業。(日曜日に出校できない人は、本校で月曜日に受講できます)

▶学習場所 本校、中津市・日田市・佐伯市の県立高校。

▶学資 学年当初に約1万

8千円のみで月謝不要。教科書等無償です。奨学金もあります。

▶募集期間 3月1日から4月5日まで。

筆記試験はありません。

▶入学願書・要項等請求郵便切手170円を添えて碩信高校へお申し込み下さい。

〒870 大分市上野ヶ丘2丁目 大分県立碩信高等学校
☎大分局43-9339

1月6日

消防団出初式

1月6日(水)9時30分より中津江村消防団出初式が津江中学校グラウンドで行われます。

当日は永年勤続者表彰、各分団の操法訓練、放水訓練などが行われます。

1月15日

走ろう歩こう会

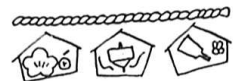
第10回新春走ろう歩こう会が次のとおり行われます。新春のひとときをマイペースで参加してみませんか。

★日時 1月15日10時

★受付時間 9時~9時40分

★集合場所 中央公民館

★コース 3km、5km



雑記帳

あけましておめでとございます。

昭和六三年になりました。一二月から一月とわずか一月、いえ一二月三一日からわずか一日過ぎただけなのに気分が一新します。不思議なものです。

今年は何をしようか。あれをしよう、これもしよう。と一生懸命考えてみればみるほど何をしたらよいかわからなくなってしまう。少し欲ばりすぎなのかもしれない。他人のことはとかくよくみえるものです。また、これは何に對してもいえることで、我が身が情けなくなることもありがちです。

今年自分自身の力をしっかりと把握し、無理な背伸びをせず、そして、あれもこれもではなく、直面することをとにかく一生懸命がんばるといふことで一件落着。

昭和六三年もよろしくお願ひします。